

但馬の「コウノトリ育む農法」

動植物の生態系守る効果



県立大内藤准教授のチーム

コウノトリの餌となる生き物などが豊富な田んぼをつくる「コウノトリ育む農法」について、兵庫県立大地域資源マネジメント研究科（豊岡市祥雲寺）の内藤和明准教授（52）＝保全生態学＝らの研究チームがこのほど、同農法は一般的な水田よりも動植物の種類が豊富で、生態系の保全に役立っていることを明らかにした。内藤准教授によると、同農法が動植物に及ぼす影響を幅広く調べた研究は初めて。

水田に多くの種類共存を確認

①但馬の「コウノトリ育む農法」とはどんな農法ですか。

コウノトリの などが豊富な田んぼをつくる

②兵庫県立大の内藤和明准教授らの研究チームがこのほど明らかにしたのは何ですか。

同農法は一般的な水田よりも が豊富で、 の保全に役立っていること

③同農法はどのように始まり、どんな特徴がありますか。

コウノトリの の取り組みを後押ししようと2003年、本格的に始まった。一般的な水田が水を抜く などにも水を張り、生き物がすみやすい環境にするのが特徴

④感想を書きましょう。



内藤和明准教授

水を張った田んぼとコウノトリ＝豊岡市庄境

同農法はコウノトリの野生復帰の取り組みを後押ししようと2003年、本格的に始まった。一般的な水田が水を抜く冬から春先などにも水を張り、生き物がすみやすい環境にするのが

（阿部江利）

特徴。20年11月時点で但馬の約556枚の水田で取り組んでいる。

研究チームは豊岡市内の3地区で2014、15年、同農法と一般の水田延べ120枚を対象に、昆虫など生き物9種の量と植物の種類の違いを調査した。

その結果、植物は水田内、あぜとも、同農法の方が種類が豊かだった。生き物は、アシナガグモや水生昆虫のゲンゴロウなどについては同農法の方が豊富に確認できたという。成果を昨年11月、日本生態学会誌に発表した。

内藤准教授は「育む農法の水田はいろいろな生き物が生息できると言われてきたが、その効果を示せた。しかし、田んぼが維持されていること自体に大きな意味があるので、農法を問わず、各地で環境保全の意識が高まってほしい」と期待を込めている。

名前【 】